



# みどり



## 125号 『発達障害』

2018年8月1日発行／編集責任者 田中 眞／毎月1日発行／群馬県藤岡市篠塚105-1  
<http://www.shinozuka-hp.or.jp/center/>

近年、発達障害の子どもが増えてきていると言われています。文部科学省が平成24年に実施した調査の結果、通常学級にいる子どものうち発達障害の可能性があり、特別な教育的支援を必要とする子どもは6.5%程度いる可能性がわかりました。

### 発達障害とは

発達障害とは、生まれつき脳機能の一部に障害があり、ものごとの見方や行動の仕方などにかたよりが現れ、日常生活にうまく適応できなくなる状態のことを言います。

発達障害の定義はいくつかありますが「発達障害者支援法」では「自閉症、アスペルガー症候群、そのほかの広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥・多動性障害、その他これに類する脳機能の障害であって、その症状が通常低年齢において発現するもの」と定義されています。これらの中のいくつかを併せ持つケースも少なくなく、その程度もまちまちです。

発達障害が生じる原因についてはまだわかっていませんが、生まれつきのものであり、親の育て方や生育環境が原因で発症するものではありません。

### 自閉症

対人関係の障害、コミュニケーションの障害、パターン化した興味や活動の3つの特徴を持ち

ます。乳幼児期から視線が合いにくかったり、オウム返しが多かったり、同じ動きを繰り返したりなど、様々な特徴が見られます。

### アスペルガー症候群

ことばの遅れのない自閉性障害です。大部分は知的障害を伴いません。幼児期に言語発達の遅れがなく、難しい言葉を使ったり、話し好きだったりすることもあるため一見わかりにくいですが、いわゆる「空気の読めない人」と思われたりするなど、成長とともに対人関係の不器用さがはっきりしてくることが特徴です。

\*最近では、自閉症やアスペルガー症候群など、自閉症の特徴を持つ障害を併せて「自閉症スペクトラム」と呼ぶことも増えました。

### 学習障害

知的発達に遅れはなく、視覚障害や聴覚障害も見られないのに「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」などといった能力の習得や使用に困難が生じる障害です。スラスラお喋りが出来るのに文字が読めない、簡単な計算も指を使わないとできないなど症状の現れ方は様々です。得意分野と不得意分野の差が激しいため、本人は一生懸命やっても、怠けているなどと誤解されてしまうこともあります。

学習障害の中で、読み書きの能力に著しい困難を示す障害のことをディスレクシアといいま

す。学習障害は日本独自の定義ですが、ディスレクシアは世界的に認められている障害です。海外では有名人がディスレクシアを告白したりしています。日本語に比べ、音の処理過程が複雑なアルファベットでの発生頻度が高いと言われていて、その分欧米では認知度も高いのですが、日本はまだ理解が浅いのが現状です。

## 注意欠陥・多動性障害（ADHD）

ADHDには不注意、多動性、衝動性の3つの特徴があります。物忘れが多かったり、注意散漫だったり、落ち着きのなさなどが見られます。授業中にじっとしていらなかったり、ささいなことでかっとなったりしてしまうため、周囲から敬遠されてしまうこともあります。多くの子どもには多かれ少なかれこのような様子が見られますが、年齢や発達に合わないほど強い特徴が見られたり、保育園、幼稚園や学校での生活に支障をきたしたりする時にはADHDの可能性が考えられます。

ADHDには薬による治療も有効です。障害そのものを治すことはできませんが、ADHDの症状を一時的に抑えてくれます。とはいえ、薬を飲むことにより眠気や食欲低下、食欲増進などの様々な副作用が現れることもあります。安易に薬を使用するのではなく、良い面と悪い面をよく考え、医師とよく相談して選択するのが望ましいです。

## 大人の発達障害

近頃大人の発達障害が注目されています。発達障害への関心が増え、医療機関を受診するケースが増えているようです。子どもの頃障害が目立たなかったり、親の育て方の問題と思われたりして発達障害が見過ごされてきてしまったために、社会に出てから様々な困難に直面することがあるようです。適切なコミュニケーションが行えず職場で浮いてしまったり、仕事での

ミスが多かったり、思うように家事が出来なかったり、失敗を繰り返すうちに精神的に不安定になりうつ病などの二次的な障害を引き起こしてしまうこともあります。発達障害かもしれないと思われた時には、専門機関に相談してみるのもよいかもしれません。

## そのほかの発達障害

代表的な障害には「チック」や「発達性協調障害」、「吃音」などがあります。チックは本人の意志とは関係なく、体の動きや音声が現れる障害です。発達性協調運動障害とは、いくつかの動作を協調させて行うことが苦手で、手先の不器用さや、運動機能の低さが目立つ状態をいいます。吃音とは一般的に「どもり」といわれる状態のことです。

## 発達障害に対する支援について

発達障害は個人差が大きく見られるのが特徴です。診断名にこだわらず、子どもの認知機能の発達状態や特性をよく見極め、適切な対応をすることでその能力を伸ばしていくことが重要だと考えられます。日常生活や社会生活での困難をなくすために、できないことや不得意なことの原因を探り、どうすればできるようになるのかを考えて支援していきます。家族だけでは対応が難しいこともあり、そうした場合にはリハビリ職など、専門家のアドバイスやサポートを受けることもできます。発達障害のある子どもを支援するには、家族だけでなく医療、福祉、教育現場などとの連携が大切です。

## 最後に

残念ながら発達障害の症状は完全に消えるものではありません。しかし、適切な対応やサポートを受けることで、日常生活や社会生活が改善されます。気になるときには専門機関に早めに相談するようにしましょう。

（文責：吉本 有佳里）